本カードは、文部科学省作成“「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育”を参考に、学校・地域・家庭が協力をして児童生徒の安全を目指すために作成いたしました。

**名　前**

**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**

**緊急連絡先**

**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**

○上記の者が事件・事故にまき込まれた場合、御連絡をお願いします。

**学校への登下校の際や自宅から外出した際に、地震・台風等の大規模な災害や事故に遭遇した場合、このハンドブックを参考にして、自分の安全を確保しましょう。**

**【学 校 名】**

**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**

**【学校住所】**

**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**

**【学校電話番号】**

**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**

**【学校への連絡】**

　事件・事故、災害発生時において、落ち着いた段階で安否報告を行う。

　・自分の安否（様子）、周囲の状況、その他の情報

**〈報告〉**

　・事件・事故、災害等の種別によって、報告手段の優先順位を確認しておく。

　・報告する相手は誰か確認しておく。

　・報告する内容は時間を含め事実を正確に伝える。

　・報告は時間経過とともに逐一おこなう。

**〈報告手段〉**

**●電話での報告**

　・携帯電話 ＜ 固定電話 ＜ 公衆電話

　（震災では公衆電話がいちばんつながりやすい）

**●メールでの報告**

　・アドレスの確認と記録

**●インターネットを経由しての報告**

　・ＵＲＬ及びアドレスの確認と記録

**●その他の方法**

　・学校が指定又は推奨する方法で報告する。

**【万一の準備】**

**●通学経路の安全確認**

　・地震等が突発的に発生した場合を想定し、「落下」「倒壊」「移動」の危険を予測できるように、日頃から観察力をもって行動する。

　・避難経路や避難所などを確認しておく。

**●安否情報の報告**

　・報告を行うための通信手段の方法と、災害等の種別による通信手段の優先順位を確認しておく。

　・通報の為の連絡先を確認しておく。

**●家族との合流**

　・災害等の種別による交通障害を考え、家族と合流する場所を確認しておく。

**【万一の対応】**

○正確な情報の収集と、危険を避けるための判断をする。

○単独での行動は避ける。

○避難について経路を確保する。

　・ドア等の出入口を開け、逃道を確保する。

　・「落下」「倒壊」「移動」が考えられる建物等から離れる。

　・原則、移動は徒歩で行う。

○自分の安否について報告を行う。

　・家族との安否確認を行う。

　・学校への安否報告を行う。

　・必要な通報を行う。

○自分の命は自分で守ることを前提に、正確な情報に基づいて冷静に行動する。

**安全**

**ハンドブック**

**（高校生用）**

**●事件・災害等発生直後**

・電車・建物内から、やみくもに飛び出さない。

・慌てず落ち着いて行動する。

・持っている荷物等で、頭部を保護し身を守る態勢をとる。

・落下物が考えられる場所、倒壊や移動してくる物がない場所に移動する。（初期退避行動）

・建物の内部にいる場合は、倒壊の危険を判断し避難行動をとる。

**●直後の行動（安全確保）**

・被害の程度や周囲の状況を把握する。

・自分の安全を確保する。

・地震の場合、余震が治まってから安全な場所に移動する。

・雷や突風に遭遇した場合、近くの頑丈な建物内に避難し、室内の移動しないものの陰に身を隠すか、壁・窓から離れ部屋の中央付近で身をかがめ、安全を確保する。

・屋外で雷に遭遇し屋内へ避難できない場合は、大きな樹木や高い電柱等の人工物から離れ、身をかがめる。

**●対応行動・避難行動**

・自宅、学校へ安否連絡を行う。

・自宅または学校が被災場所から10㎞以内であれば、学校または自宅へ向かう。どちらも10㎞以上ある場合は、近くの避難場所へ避難する。

・徒歩で移動出来る距離は10㎞以内とされている。

　（災害時の歩行速度は2.5㎞/h。10㎞で４時間を要す）

・夜間は犯罪に巻き込まれる可能性が高いので、自宅、学校への到着が日没以降になると見込まれる場合は、近くの避難場所へ一時的に待避する。

**【直後の行動（安全確保）】**

**【対応行動・避難行動】**

**●事件・災害等発生直後**

・冷静に行動することを心掛ける。

・事故の相手等の確認をする。

・自分を含め負傷者がいる場合、

　　　 **１１９（救助要請）**

　　　 **１１０（事故発生の通報）**を行う。

・周囲に助けを求めるようにする。

**●直後の行動（安全確保）**

・負傷者がいる場合、救護に努める。

・交通事故の発生に遭遇した場合、二次的な事故や被害が発生しないよう周囲と連携し交通整理等に協力する。

・負傷者がいる場合、必要に応じ周囲と協力して、救急救命を含め、負傷者の救助を行う。

・自分が怪我をしている場合、必ず医療機関を受診する。

　（怪我の具合などによっては救急搬送）

**●対応行動・避難行動**

・必要に応じ、自宅、学校への連絡を行う。

・自分が怪我を負わせた場合、相手方への謝罪を真摯に行う。

**●事件・災害等発生直後**

・身の安全を確保するよう行動する。

・大きな声を出し、危険を周囲に知らせる。

・不審者との接触があった場合

　　○徒歩、自転車に乗った者からの接触を受けた場合

　　　　　　　・相手との距離を保ち、近づかない。

　　○自動車運転者から「声かけ」を受けた場合

　　　　　　　・車のドアより前に立つ。

　　　　　　　・逃げる際には、車の進行方向とは逆に。

**●直後の行動（安全確保）**

・危険を回避するため、明るいところ、人の通行があるところを目指して逃げる。

・逃げる際にも、声を出し、危険が迫っていることを周囲に知らせる。

・自分の安全を確保し、周囲の人に助けを求める。

・通報を要請する。　　**１１０（被害の通報）**

・怪我をしている場合、**１１９（救助要請）**

**●通報後の行動**

・警察等へ的確に情報提供を行う。

・状況を確認し、落ち着いて自宅及び学校へ報告する。

**災害安全（地震・雷・突風等）**

**交 通 安 全**

**生活安全（不審者被害）**

**【事件・災害等発生直後】**

**自分のいる場所は安全か？**

　　　　・落ち着いて行動　　 ・身の安全第一

　　　　・正確な情報の収集　 ・冷静な判断

**その場で安全確保**

**移動して安全確保**

**学校・自宅へ**

**避難場所へ**

**避　　難**

　　　　　**①通報（必要に応じ）**

　　　　　　・警察　　　　　・消防（救急）

　　　　　**②連絡・報告**

　　　　　　・家族との連絡　・学校への報告

**ＹＥＳ**

**ＮＯ**

**一時避難・安全確保**